

日吉台地下壕保存の会

会報

第33号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL. 045-562-1282

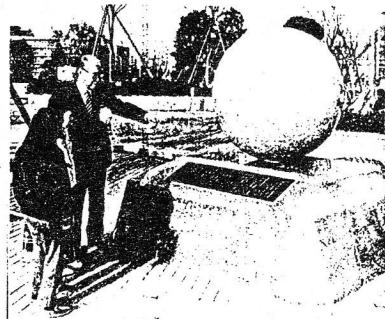
(年会費) 一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号00250-2-74921

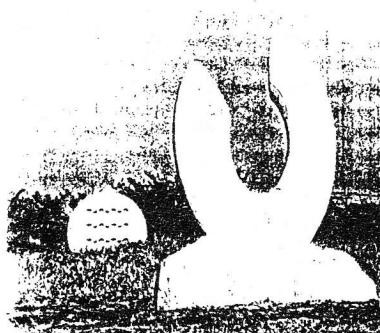
(加入者名)日吉台地下壕保存の会



かわさきのあゆみ
川崎市刊より



核兵器廃絶の願いこめた記念碑



「平和」をテーマにした外国人の彫刻

公園正面にある「平和の誓い」母子像

目次 ページ

第3回「横浜・川崎平和のための戦争展」開催にあたって	2
戦後50年、私達は何をなすべきか	2 ~ 3
1995年度総会資料	3 ~ 6
連載日吉台地下壕 当時の関係者の思い出話 お知らせ	7 8

昭和58年6月。中原区木月住吉町に中原平和公園がオープン。ここは、戦後、米軍出版センターとして接收されていたが、50年に國へ返還された。市は、ここを平和を祈念する公園に整備し完成した。母子像「平和への誓い」のほか、「平和」をテーマに世界7カ国9人の彫刻家がくり広げた国際彫刻シンポジウムの作品や、平和都市宣言記念碑（台座には宣言文が刻まれ、地球を表現したみかけ石の球）などが配置されている。平和を願う川崎市民のシンボルとして後世に受け継がれることだろう。

第3回「横浜・川崎平和のための戦争展」

開催にあたつて

第3回横浜・川崎平和のための戦争展

実行委員長 龜岡 敏子

写真や資料の展示は六月六日

今までに二回「平和のための戦争展」を開催しましたが、

共に予想以上の多数の来場者と大きな反響があり、新聞やテレビにも取り上げられました。ご支援くださつた方々のおかげです。

戦後五〇年、日本は平和の中になりますが、世界各地で

戦争も紛争も止む事がありません。戦後世代が社会の大勢を占める今、戦争の事実を正しく知り、体験を後の世に正しく伝える事が、平和への願いに結びつくのではないでしょか。

写真や資料の展示は六月六日から一日まで。一〇日、一日には、講演やシンポジウムに朗読。ビデオも数多く用意しております。皆様のご来場をお待ちしております。詳細は別紙の通りです。費用は全て、お寄せ頂いた賛同金で賄っております。どうぞ、今年も宜しくお願ひします。

戦後五〇年、

私達は何をなすべきか

第3回横浜・川崎平和のための戦争展

実行委員会代表 寺田 貞治

戦後五〇年、当時少年であった私は、今でも戦争中のことが走馬燈のように思い出されます。

戦後五〇年、當時少年であった私は、今でも戦争中のことを走馬燈のように思い出さ

れています。毎日のように襲つて来た空襲、



機銃掃射に逃げ回った日々・

殊に敗戦の日、私達中学生が、軍事教練用の三八式小銃を一人二丁ずつかついて軍隊に運ぶ途中、上級生が勤労動員で働いている車需工場に立寄り、玉音放送を聞いたこと、その後行つた軍隊は混乱を極め、銃を受け取る人も見えず、銃を練兵場の草むらに放り投げて家に帰つたことを今でも鮮明に覚えています。

それまでは死を覚悟していましたが、もうこれで死ななくてよいという思いが、自然にこみ上げてきました。不思議に負けてくやしいという思いは全くありませんでした。

恐らく一部の人を除き多くの人々は、そう感じたのではないでしょうか。赤紙一枚で召集された元兵隊さんの多くは、聞き取り調査でも、そのよう

なことを話されていました。

戦争中を生きた人々も、戦争を一部しか知りません。戦争の真実を知らされてこなかつた所為もあつて、戦後五〇年もたつて、従軍慰安婦問題、戦後補償問題、不戦決議など、先の大戦にまつわる多くの問題が話題になつております、戸惑つている人々が多いのではないかでしょうか。

私達は、来る六月「横浜・川崎平和のための戦争展'95」を開催します。身近にある戦争の遺跡を通して、戦争の実相を少しでも多くの人々に知つて頂き、私達日本人がアジア及び世界の人々に信頼され、過去の日本の戦争についての様々な問題にたいして、悔いを未来に残さないようにできればと思います。

多くの方々のご来場をお待ち申し上げます。

日吉台地下壕保存の会

連続講演会および一九九五年度総会開催される

四月一五日(土)、初代会長の永戸多喜雄慶大名誉教授をお招きして「戦時中の慶應義塾と戦争体験」と題して講演していただいた。生れた時から戦争の精神一色の中で育ち、大学在学中に終戦を迎えた世代の感慨がほとばしる素晴らしい講演で、若い世代の人々にもっと大勢聞いてもらいたかった。

ついで総会にうつり、鮫島会長より慶應義塾との非公式の話し合いが、公式の話し合いにいま一步近づきつつあるという力強いお話ししがあった。

活動報告、会計報告、活動方針、予算、運営委員など別記の通り可決された。

(単位は円)

	1994年度予算	1994年度決算	備 考
収入の部			
会費	360000	472640	
カンパ	0	7200	
利息	0	2886	
事業益	0	265016	
繰越金	375921	375921	
合 計	735921	1123663	
支出の部			
会議費	20000	12094	各種会合費
事務費	60000	14612	事務用品
印刷費	100000	13782	会報、パンフレット等
通信費	300000	160825	会報その他郵送代
資料費	50000	0	資料集等
謝礼	50000	46564	講師・調査等
交通費	60000	67600	全国交流会参加等
予備費	95921	5000	賛同金
合 計	735921	320477	
差引残高 計	0	803186	

以上の通り報告します。

日吉台地下壕保存の会事務局長 寺田貞治 印

1995年4月6日

この報告により収支を監査したところ適正に処理されていることを認めます。

会計監査 森山高行 印

会計監査 天野喬子 印

1994年度活動報告 ~~（案）~~

1994年度は世界も日本も引き続き激動の中にあり、先が読めない不透明な時代がありました。正月早々には阪神大震災があり、その惨状は私達に50年前の大空襲の光景を思い起こさせました。私達の運動も試行錯誤しながらやって参りましたが、肝心の保存についての見通しは、いまだに不透明なままで進展しておりません。

会の現状は、個人会員700名突破、団体会員14となっております。運営委員会1回、幹事会10回開催、会報は5回発行しました。

具体的な活動としては、昨年4月の総会時、松代大本營や日吉台地下壕のビデオ上映。7月第5回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国集会（長野市）に岡上・足立幹事が参加。10月横須賀市浦郷の地下壕見学会。12月に連続講演会「太平洋戦争と慶應義塾」第1回「真珠湾から日吉の丘へ」（講師：白井厚氏）、2月には第2回「本土決戦と日吉台地下壕」講演と地下壕見学会（講師：寺田貞治氏）を開催。12月「日吉台地下壕写真展」を横浜銀行日吉支店にて開催。

日吉台地下壕見学会と交流会は、7月三浦半島地区の地下壕調査グループ、8月沖縄のひめゆり部隊の先生と生徒や軍医と従軍看護婦の方々、10月「博物館問題を考える会」等と開催。

写真パネルの貸出しは、4月「平和のための戦争展 湘南94」、8・9月慶大白井ゼミ「特攻50年」、9月田無市公民館「特攻50年展」、12月平和のための戦争展戸塚・和泉・栄地区実行委員会「戦争と平和を考える文化のタベ」に対して行ないました。地下壕見学会は、相模田名高・慶應高・法政2高・成美学園高・相模工大付属高・多摩高の有志、のむぎオープンスクール、慶大白井ゼミ、在日本朝鮮留学生同盟、緑区小・中学校教職員、矢上小PTA、慶大生協学生委員会、同教職員委員会、神奈川生協港北支部、綱島地区センターふれあい教室、国立市公民館、沖縄県南風原文化センター、川崎市幸区聴覚障害者協会、川崎市麻生区聴覚障害者協会、ピースサイクル、朝鮮人強制連行真相調査団、川崎市中原区反核区民の会、NTT日吉地区関係者、JR東労組など多数の団体が参加、延べ700名近くの人々が見学されました。

新聞やテレビなどのマスコミにも、例年同様、何度もとりあげられました。

調査活動では、旧海軍関係者や地元の方からの証言が寄せられ、新たに判明したことが幾つかありました。

地下壕の保存については、横浜市には港北区民会議を通して要望し、慶應義塾には鯫島会長が塾長や理事に話をしたり、鯫島会長・東郷副会長・寺田事務局長が日吉キャンパス事務長に会い、話し合ってきました。

戦後50年を迎える各地で先の戦争の調査が行なわれ、平和のための戦争展が開かれようとしています。また戦争の遺跡を保存しようという動きも活発になってきました。しかし、保存されたところ、及び保存が決ったところは、まだ全国的に数えるほどしかありません。依然として厳しい状況にあることには変わりありません。50年を契機に、1歩でも前進できればと思います。

1995年度活動方針 ~~(案)~~

1 昨年は細川政権が誕生、昨年は羽田政権の誕生と崩壊、そのあとは長年対決していた自民党と社会党が手を組んで村山政権の誕生と、日本の政界は目まぐるしく変り、国民不在のまま政治は混沌としています。また、世界もソマリア、ルアンダ、ユーゴに続いてロシアのチェチェン紛争など、内戦や局地戦争が絶えません。

私達は世界的な視野に立った平和の構築を願い、身近なところで日本の過去の戦争の実相を学び、1人1人の心の中に平和の尊さを呼び起こし、再び悲惨な戦争を起こさないようにしていかなければなりません。そのために、残された数少ない貴重な戦争の遺跡を、戦争と平和を考える原点として後世に残すために、引き続き更なる努力が必要かと思います。

戦後50年を迎える今年は日本で、世界で、様々な行事が開催されるでしょう。私達は戦後50年を単なるお祭りに終らせるのではなく、不戦の決意を新たにし、戦争の実相を後世に伝えて行かなければなりません。そのためには映像や書物に記録として残すことが大切です。しかし、それは戦争の遺跡にじかに触れるときの迫力には到底及びません。できるだけ多くの戦争の遺跡を保存していくことが何より大切です。日吉台地下壕は、歴史的価値、地理的な位置、耐久性からみて、第1級の戦争遺跡といえます。日吉台地下壕と連動した戦争資料を展示する平和資料館建設の構想もふくめて、保存運動を充実させて行きたいと考えます。

第3回平和のための戦争展は、「できれば慶應義塾日吉キャンパスで」という方針を、残念ながら断念せざるを得ませんでしたが、昨年以上の成果を挙げるべく努力したいと思います。また、他団体とも協力しあって戦後50年を盛り上げ、日吉台地下壕の保存につないでいければと思います。会員の皆さんのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

1995年度予算 ~~(案)~~

(単位は円)

収入の部			支出の部		
会 費	400000	400人×1000円	会議費	100000	各種会合費
カンパ	0		事務費	60000	事務用品等
利 息	0		印刷費	140000	会報その他
事業益	0		通信費	350000	会報等郵送代
繰越金	803186		資料費	50000	資料集等
			謝 礼	100000	講師、調査等
			交通費	150000	交流会、調査等
			予備費	253186	賛同金等
合 計	1203186		合 計	1203186	

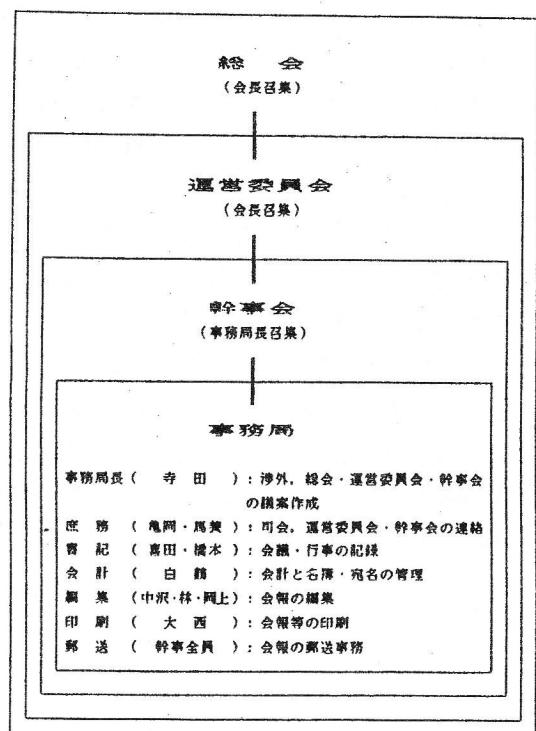
[補足説明] 収入の部の会費収入は、1994年度の会費納入者が約400人なので、
1000円×400人=400000円とした。

1995年度日吉台地下壕保存の会運営委員・会計監査 候補者

(アイウエオ順)

会長	鮫島 重俊	慶應大学名誉教授
副会長	薄井 芳夫	日吉地区連合町内会長・日吉本町東町内会長
同	田辺 和男	下田町自治会会长(予定)
同	東郷 秀光	慶應大学教授
幹事	足立 英宣	大学生
同	壱岐 尚子	主婦
同	大西 章	慶應高校教員
同	岡上 そう	専門学校生
同	亀岡 敏子	主婦
同	喜田美登里	主婦
同	小園 優子	主婦
同	佐相 康雄	会社員
同	白鶴 邦子	主婦
同	谷 栄	会社員
同	谷藤 基夫	養護学校教員
同	遠山 孝治	慶應生協専務
同	中沢 正子	慶應義塾職員
同	橋本ミチ子	主婦
同	林 ちづ	慶應義塾職員
同	馬養 貞子	主婦
同	茂呂 秀宏	養護学校教員
事務局長	寺田 貞治	慶應高校教員
会計監査	天野 喬子	主婦
同	森山 高行	公認会計士
顧問	秋本 謙三	元日吉地区連合町内会長
同	永戸多喜雄	慶應大学名誉教授
同	佐藤 林平	慶應大学名誉教授
同	田辺 昇	下田町自治会会长

日吉台地下壕保存の会 製機圖



(7)

連載

日吉台地下壕

当時の関係者の
思い出話 10

日吉の日々 2

軍令部におられた実松氏の
お話を伺います。実松 謙氏の話
(ききて・寺田貞治)

昭和一九年二月頃、軍令部第三部(情報部)は日吉に移転し、現高校校舎で情報の仕事を従事していた。高校から一〇分ほどの日吉の町に宿舎があり、五、六人が泊っていた。周囲には民家や大きな池があった。若い士官の多くは自宅から通っていたようだ。

日吉での食事は不味く、ドンケリの粉で作ったコッペパンで半分食べるのがやつとだった。お腹をこわしてばかり

いて、米国から帰ってきてひどく痩せた。同期の高松宮が時々日吉に見えたが、ある時メリケン粉のコッペパンを一個くれた。その美味しかったことは今でも覚えている。

昭和二〇年の初め頃、地下壕

1のBに移った。四月八月にかけて、本土決戦についての米国の情報を説明して廻った。各部隊は米軍がいつどこに上陸するか心配していた。

情報部は米軍は台風で大きな損害を蒙っているので、台風の時期が過ぎた一〇月末一月初めに、まず鹿児島に上陸して、航空基地を作ると考えていた。沖縄本島攻撃に際し、慶良間諸島を手中にしたように、天草に海軍基地を作ることで、ついで宮崎・四国・仙台に上陸する。主力部隊は相模湾・九十九里浜から上陸し、相模湾からは日吉を通り東京

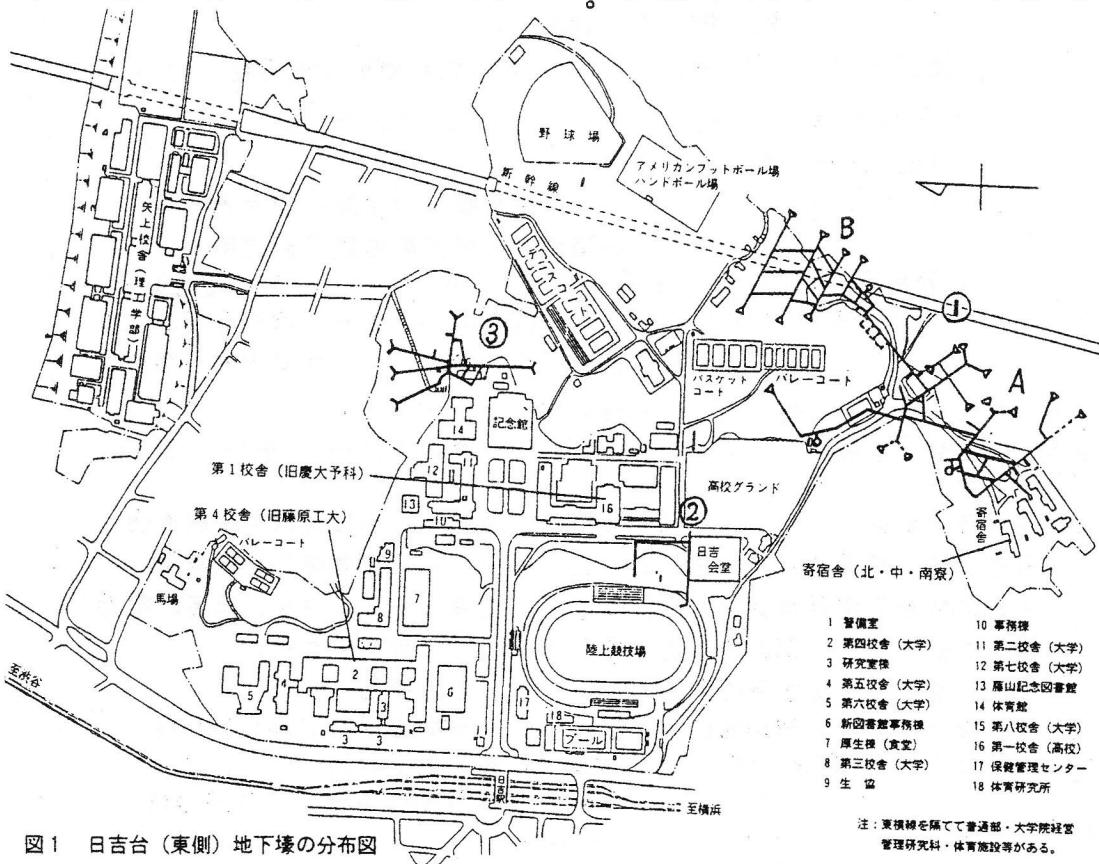


図1 日吉台(東側)地下壕の分布図

注: 東横櫛を隔てて書道部・大学院経営
管理研究科・体育施設等がある。

に向うと予想した。これらの予想は、殆ど当つていたことが、戦後、米軍のオリンピック作戦（日本上陸作戦）の資料から確認された。

高校校舎に資料室を作り、

いろいろと敵の作戦を考えた。軍令部にも、二、三人女子がいて、米国の情報をグラフにしたりした。飛行機と上陸の関係をグラフにすると上陸の場所や時間が大体わかつた。

Voice of America (アメリカの声) を聞いていると誰かへのプレゼントに爆撃したことわかった。マリアナ諸島爆撃しかり。原爆の予測も二ヶ月前についた。

爆撃する前には上空から写真を撮り、幾つかのロックに分け、低空でさらに詳しく調べ、敵に高射砲を撃たせ、その位置を確認する。次に潜水艦で島に近づき、海岸から

撃たせ、その位置を確認する。その後、大規模な空襲と艦砲射撃をして上陸する。情報部の得た情報は極めて正確であつたと、戦後米軍より高く評価された。

戦後、米戦略爆撃調査団に呼出され、戦争中に於ける日本海軍の情報作業について「このような正確な情報が得られたのは、ある種の諜報組織を持っていたからではないか」としつこく質問された。

日本海軍は情報部を軽視したが、米国の報告書には「軍令部第三部はよくやつた (Well Done)」という文

字が綴られ、かつての敵国を讃め称えている。世の中は皮肉なものである。

(生協ニュース教職員版第四
二号より抜粋転載)

お知らせ

第3回 横浜・川崎平和のための戦争展'95

「私の街から戦争が見える」

戦後50年、今こそ戦争遺跡の保存を！

旧海軍連合艦隊司令部日吉台地下壕

旧陸軍謀略秘密基地登戸研究所

開催日程 1995年6月6日(火)午前9時～6月11日(日)午後5時まで

会場 川崎市平和館 川崎市中原区木月住吉町1957番地1 ☎044-433-0101

(東横線元住吉駅下車 徒歩10分 中原平和公園内)

展示 6月6日午前9時～11日午後4時 於 ギャラリー

講演 (講演、朗読、シンポジウム、ビデオ上映は6月10日(土)～11日(日))
イベント

(1) 登戸研究所見学会 5月21日(日)午後1時 小田急線生田駅集合

(2) 日吉台地下壕見学会 5月27日(土)午後1時 東急線日吉駅集合

*日吉台地下壕見学会参加希望の方は、往復はがきに住所、氏名、電話番号を記入し、下記に申し込んで下さい。(人数制限あり)

〒223 横浜市港北区下田町3-15-27 寺田 貞治

*見学には長靴・懐中電灯が必要です。 *参加費はいずれも500円

お手伝い頂ける方お電話ください。連絡先 亀岡敦子 ☎045-561-2758

喜田美登里 ☎045-562-0443